

2025 年度 事業計画

I. ばね産業を取り巻く環境

製造業は日本の GDP と就労人口の約 2 割を占める重要な基幹産業である。ばね産業の主要顧客である機械工業全体（輸送用機械器具、電気機械器具、一般機械器具）においては、全製造業の GDP の約 4 割を占めている。この数年続いていた半導体不足はコロナ禍の収束とともに解消されて、グローバルなサプライチェーンの再構築が進んだ一方で、新たに国際間取引などの地政学リスクが生じている。

当工業会では企業経営に大きな影響を与える国内外の事業環境の変化に注視し、政府・関係省庁と関連業界との連携・協働でこの状況を乗り越えて、持続可能な社会の実現に貢献していく。

日本のばね産業は経済産業省 生産動態統計によれば、コロナ禍前後（2019 年/2020 年、2023 年/2024 年）の金属製ばねの生産数量と生産金額、および自動車生産台数と輸出台数は表 1 に示す数値となっている。

表 1： 金属製ばねの生産数量・生産金額、および自動車生産台数と輸出台数（日本国内）

国内生産量	2019 年	2020 年	2023 年	2024 年 (2023 年対比)	
金属製ばね 生産数量	425,203 ton	353,696 ton	408,601 ton	403,719 ton	98.8%
生産金額	3,219 億円	2,793 億円	3,212 億円	3,154 億円	98.2%
四輪自動車 生産台数	968 万台	807 万台	900 万台	823 万台	91.4%
輸出台数	482 万台	374 万台	442 万台	422 万台	95.3%

金属製ばねの生産金額はコロナ禍の 2020 年 2,793 億円を底にして、2024 年 3,154 億円と回復する一方で、顧客の自動車産業の生産停滞の影響を受けている。この 1 年は原材料・エネルギーコスト、人件費の価格転嫁が進んでいることを加味すると、ばね産業はリーマンショック以降 15 年間維持した事業規模から縮小、低迷する事業局面に入っているとも判断できる。

2024 年の国内自動車生産は 823 万台の中、輸出台数 422 万台で 51.2%を占めている。また、2019 年の輸出台数 482 万台と比較して 12.5%減少する中、現地生産している中国と東南アジアでの生産低迷は自動車産業の事業再編を加速させている。

2024 年の日系自動車メーカーの海外生産台数は 1,648 万台、国内生産を含めた全世界での生産台数は 2,471 万台となり、グローバルな成長戦略の大幅な修正は避けて通れない状況へと急変している。

図 1 に 2007 年以降のばねの生産数量、図 2 にばねの生産金額、図 3 に日本メーカーの四輪車生産台数の推移を示す。ばねの生産推移は、①ばね材料の高強度化による軽量化 ②ばねの最適設計による軽量化

などの技術開発が進んだこともあるが、③ばねの海外現地生産の進展 ④顧客の事業構造の変化、そして新たな要因として ⑤地政学リスクの顕在化 などの事業環境の変化も大きく影響している。

ばねは機械要素を構成する基幹部品の1つであり、自動車、電機・電子製品、産業機械など、身の回りにある様々な分野に使用されており、製造業の中で景気動向をいち早く反映する製品となっている。

II. 日本のばね産業の課題

日本のばね産業は従業員 300 人以下の中小企業・小規模事業者を中心とした業界構造で、約 20,000 人が働いており、ものづくりニッポンを牽引している。優秀な人材に支えられた高い技術力とコスト競争力を背景に優位性を確保してきた。しかし、持続可能で安定した経営を実現するには、急騰した原材料費やエネルギー費、労務費等を多くの企業が価格交渉・価格転嫁できる環境整備も不可欠である。

経済産業省が主導する「価格交渉促進月間」は 2021 年 9 月より毎年 9 月と 3 月に設定されて、2025 年 3 月で 8 回目となっている。コスト上昇分をどれだけ取引価格に転嫁できたかを示す「価格転嫁率」は 24 年 9 月時点で 49.7%となっている。取引関係が改善されて価格転嫁が進んでいるが、労務費の適切な転嫁が進まない場面もあり、2023 年 11 月に策定・公表された「労務費指針（労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針）」を関連業界団体と協力し、更なる周知・活用を図っていく。

図 4 に金属製ばねを製造する事業所数、従業者数を示す。日本のばね産業は中小規模の事業者が多いことも特徴の 1 つであり、従業者数 300 人以下の事業所が 460 社（98.1%）を占めている。また、図 5 にリーマンショック以降の事業所数の推移を示したが、事業所数はこの間に 31.6%減少し、469 社となっている。また、従業者数 3 人以下の事業所は 2020 年 116 社（2019 年 344 社）とコロナ禍で急減している。

ばね産業の事業承継・M&A の状況は日本と海外、特に欧米とは大きく異なっている。欧米ではファミリービジネスの企業が多く、経営資源の散逸を防ぐとともに、経営者の世代交代を通じて事業の再構築、企業変革に積極的に取り組んでおり、承継後も事業に参画する状況である。他方で、当工業会でも会員企業の世代交代はここ数年で進んでいるが、後継者不足の問題は解消されず、改善の取り組みが続いている。

現在、日本のばね産業の将来展望、工業会のあるべき姿、果たすべき役割を総務委員会が中心となって継続検討している。今後も事業運営（組織力）の強化、情報発信力の強化を通じて、デジタル新時代（IoT、AI 活用）を見据えた成長戦略と価値創出の実現を図っていく。

① 事業運営（組織力）の強化

- ・事業企画力の強化、ビジョンに基づくアクションプランの実施
- ・次世代を担う人材育成、および新たな表彰制度の検討
- ・機関誌/ホームページの運営体制の強化、規程類の整備

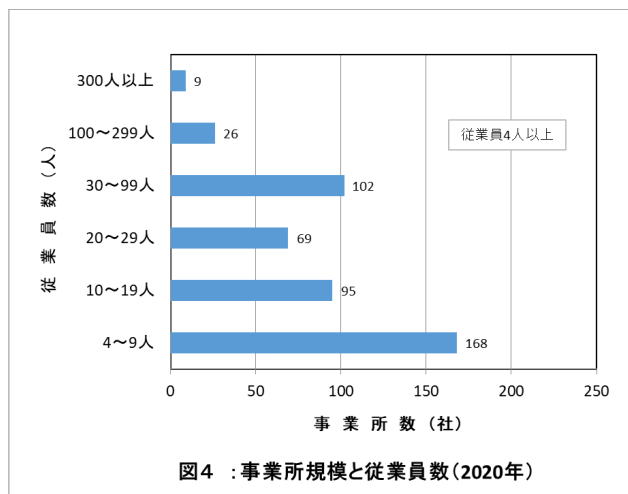
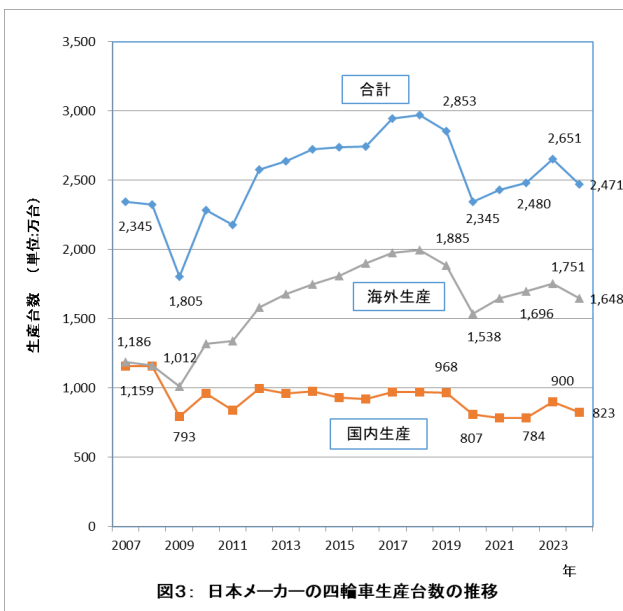
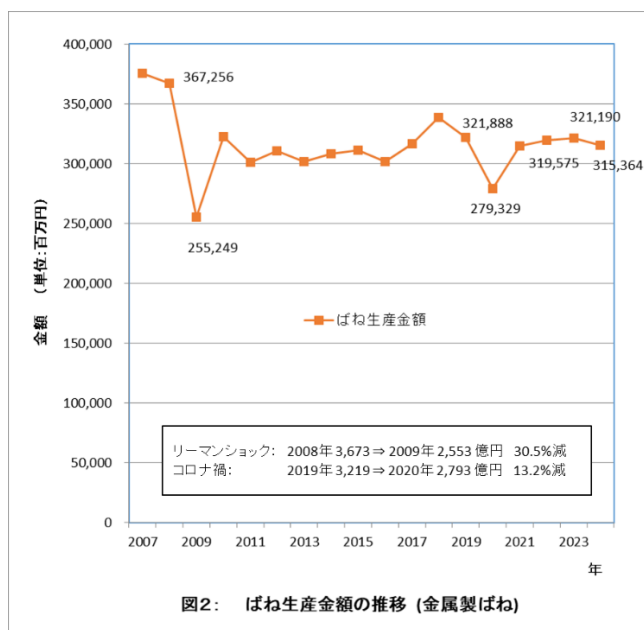
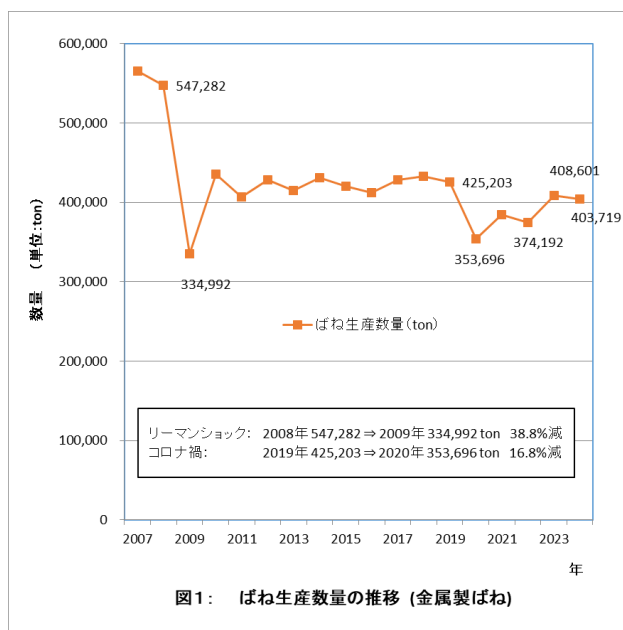
② 情報発信力の強化

- ・会員に対する情報サービス向上、ホームページからの情報発信
- ・海外に向けた情報発信力の強化、産官学との新たな連携の模索

③ 2030 年のあるべき姿の具現化

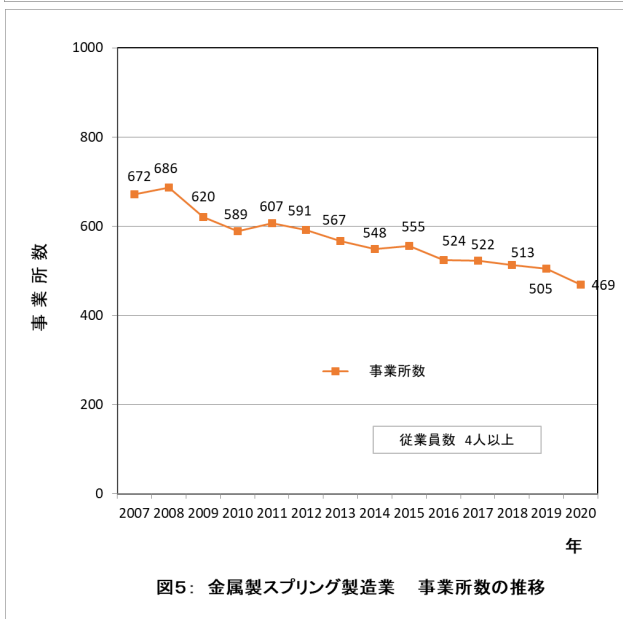
- ・事業環境の変化に対応可能な工業会組織の実現
- ・多様な価値観、多様な視点を創出する交流の場の提供
- ・3 支部（東部/中部/西部）の特長を反映させた事業運営の実施

地球環境の変化、特に地球温暖化による異常気象は日本全国が例年と異なる猛暑・酷暑を経験し、世界各地で異常な気候変動が報告されたこともあり、世界の平均気温上昇を産業革命前より 1.5℃に抑えるパリ協定の目標が再確認されている。日本の製造業から排出される CO₂は国内で約 30%を占めており、政府目標である 2050 年のカーボンニュートラル実現に向けて、産業界として社会や環境に配慮した取り組みが進められている。当工業会においても、温室効果ガス削減に向けた講演会開催などの啓発活動や関係省庁・関係団体との連携を図っていく。



【金属製スプリング製造業】

事業所規模	事業所数	従業員数
従業員4人以上	469社	17,755人
従業員3人以下	116社	247人
合計	585社	18,002人



Ⅲ. 2025 年度 日本ばね工業会の基本方針

日本ばね工業会は 77 年間の長きに渡り、日本と世界のばね産業をリードしてきた。ばね産業のグローバル化は市場の拡大がある一方で、海外事業環境の変化、競争ルールの変化などの大きな課題、特に保護主義の台頭などにも直面している。そのために、新たな国際競争力の強化、グローバルなサプライチェーンの再構築、勝ち抜くためのイノベーションが従来以上に必要となっている。

日本のばね産業は革新的な材料や技術を通じて、世界の製造業に新たな価値を提供し、その成長を支えてきた。世界のルールが大きく変化する混沌とした時代においても、日本ばね工業会はばねの技術革新と更なる付加価値の創造によって、国内外の製造業の成長を牽引していくとともに、持続可能な社会の構築に貢献していくことが使命である。

当工業会の活動は従来の枠組みに縛られることなく、国内外の産学・関係団体との連携強化、特に異業種の多種多様な知の融合が図られることで、新たな技術領域や市場創出につながる大きなイノベーションが成し遂げられるものと確信している。

当工業会ではあるべき姿、果たすべき役割を改めて問い直すとともに、より効率的な対策と対応強化を図っていく。また、最大限の効果を上げるためには、日本ばね学会をはじめとする関係団体、政府・関係省庁との協力も、今まで以上に強化していく必要がある。既に従来から実施している国際交流、次世代を担うグローバル人材の育成は企業や国を超えて対応するとともに、共通する課題解決に向けた議論を行い、事業環境の変化に敏感に伝えていく所存である。

このような状況の中、日本ばね工業会は 2025 年度において下記の主要事業を再確認するとともに、国内・海外の業界を取り巻く環境の変化をしっかりと捉え、協調連携してグローバルに情報を発信していく。

<一般社団法人としての事業>

- (1) ばねに関する規格・基準の制定と普及
- (2) 金属ばね製造技能士の育成と資格認定試験の受託・実施
- (3) ばねの生産統計

<事業者団体としての事業>

- (1) 体質強化事業、技術調査研究事業、国際交流、広報事業
- (2) 当工業会の目的を達成するための事業